

イノシシ用恒久型防護柵のイノシシ被害回避効果			
[要約] 本県において施工されているイノシシ用恒久型防護柵は、イノシシに対する侵入防止効果が高い。			
農業技術振興センター-栽培研究部湖北分場		[実施期間] 平成15年度～18年度	
[部会] 農産	[分野] 多面的機能	[予算区分] 国庫	成果分類] 行政

[背景・ねらい]

本県の中山間地域ではイノシシによる農作物被害が多発しており、様々な対策が講じられている。中でも、恒久型防護柵が「動物誘導柵」として県内各地域で施工されているが、恒久型防護柵のイノシシに対する防除効果については、科学的な検証を行った事例がほとんどない。

そこで、イノシシ用として本県で施工されている恒久型防護柵（以下、イノシシ用恒久柵）の被害回避効果について、イノシシの行動学的な観点から調査を行い、今後の恒久柵設置に関する基礎資料を得る。

[成果の内容・特徴]

イノシシ用恒久柵は、間伐材を支柱として金網を展張し、地面からの潜り込みを防ぐため、接地部をコンクリーで固めた構造である（図1）。

イノシシ用恒久柵を設置した後は、年次に関わらず施工した柵の山側にイノシシの痕跡が認められるが、農地に出没した痕跡は全く認められず、被害もない（図2, 3）。

イノシシ用恒久柵は、農作物の収穫が盛んになる時期において山側に痕跡が多数認められるが、農地に出没した痕跡はない（図4）。

イノシシ用恒久柵設置後のイノシシの行動は、柵を越えることなく森林内の一定の範囲を動く（図5）。

以上の結果より、イノシシ用恒久柵はイノシシの行動を森林内に止めることができ、農地への侵入を防止する効果が高い。

[成果の活用面・留意点]

イノシシ用恒久柵はイノシシの侵入防止効果が高い反面、コストが高いことや、住民の防除意識を低下させる懸念があることから、導入にあたっては、被害状況、集落の管理体制、柵脇の管理道の設置などを十分考慮しながら、適正な柵の選定を含め慎重に進める必要がある。

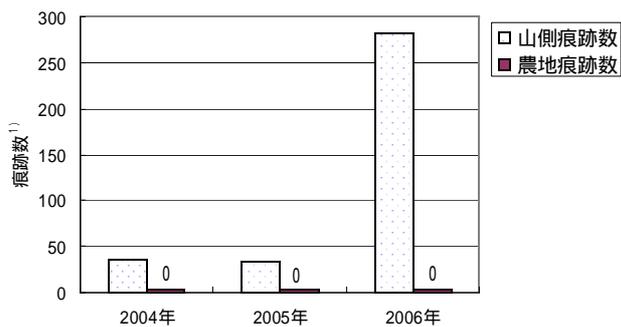
イノシシ用恒久柵の設置後は、管理が行われないケースが多く見受けられるため、地域での継続的な点検が必要である。

その他の対策と併用して、地域ぐるみで総合対策を行うことが望ましい。

[具体的データ]

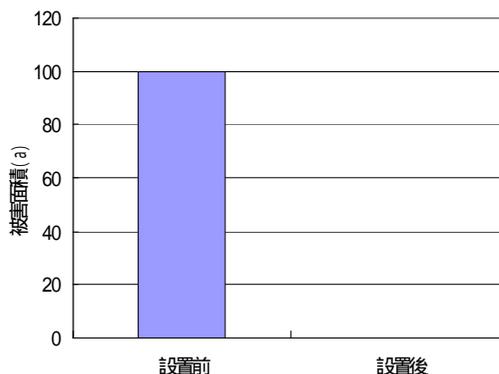


図1 イノシシ用恒久柵

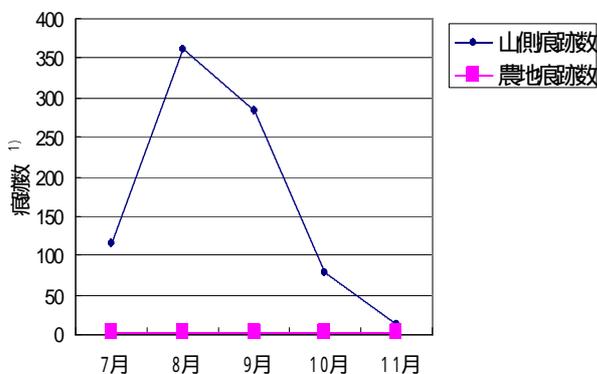


注1) 掘り返し等の面積を50cm x 50cmの枠数で表した。

図2 年度別イノシシ痕跡数の推移 (調査地: 高月町高野)



注1) 設置後3年間の被害状況.
図3 恒久柵設置前後の被害状況 (調査地: 高月町高野)



注1) 掘り返し等の面積を50cm x 50cmの枠数で表した。

図4 月別イノシシ痕跡数の推移(2006年) (調査地: 高月町高野)

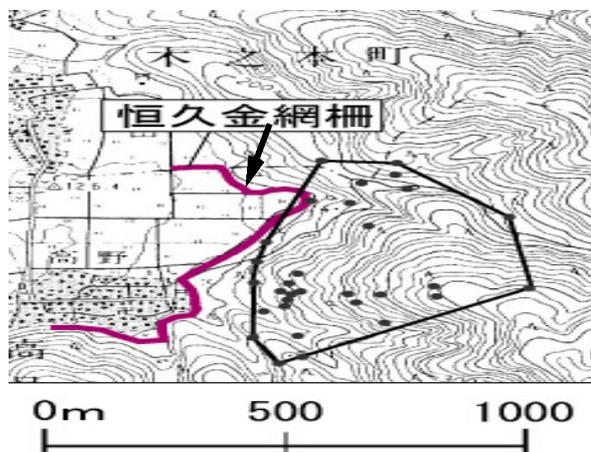


図5 恒久柵設置後のイノシシ行動域 (滋賀県立大との共同研究 2006年)

[その他]

・研究課題名

大課題名: 農林水産業の持つ多面的機能の評価および増進に関する研究

中課題名: 心やすらぐ田園空間の創造と多面的機能の発揮に関する研究開発

小課題名: 野生獣(イノシシ)の生態解明と農作物被害防止技術

研究担当者名: 山中成元(H15~18)、保積隆夫(H16)、石庭孫義(H17~18)、藤居和彦(H18)、森茂之(H18)

その他特記事項: なし